

2025年度

J-クレジット制度 沖縄地域活用事例集



J-クレジット制度のご案内

① J-クレジット制度の仕組み

J-クレジット制度は、省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの活用による温室効果ガスの排出削減量や適切な森林管理による温室効果ガスの吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。

認証されたクレジットは、購入することができ、カーボン・オフセットや温対法・省エネ法での活用、CDP・SBT・RE100での報告に活用するなど、さまざまな用途に活用※できます。また、クレジットの購入代金はクレジット創出者に還元され、さらなるCO₂排出削減／吸収の取組や地域活性化等に活かすことができます。

※ クレジットの活用については p.9 を参照。



② J-クレジット創出者のメリット

ランニングコストの低減

省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの活用によりランニングコストの低減やクリーンエネルギーの導入を図ることができます。

クレジット売却益

設備投資の一部を、クレジットの売却益によって補い、投資費用の回収やさらなる省エネ投資に活用できます。

PR効果

自主的な排出削減や吸収プロジェクトを行うことで、温暖化対策に積極的な企業、団体としてPRすることができます。

新たなネットワーク構築

クレジットの創出や売買を通して新しいネットワークの構築につながります。

組織内の意識向上

省エネの取組が数値として見える化でき、メンバーの意欲向上や意識改革にもつながります。

③ J-クレジット制度の対象となる事業

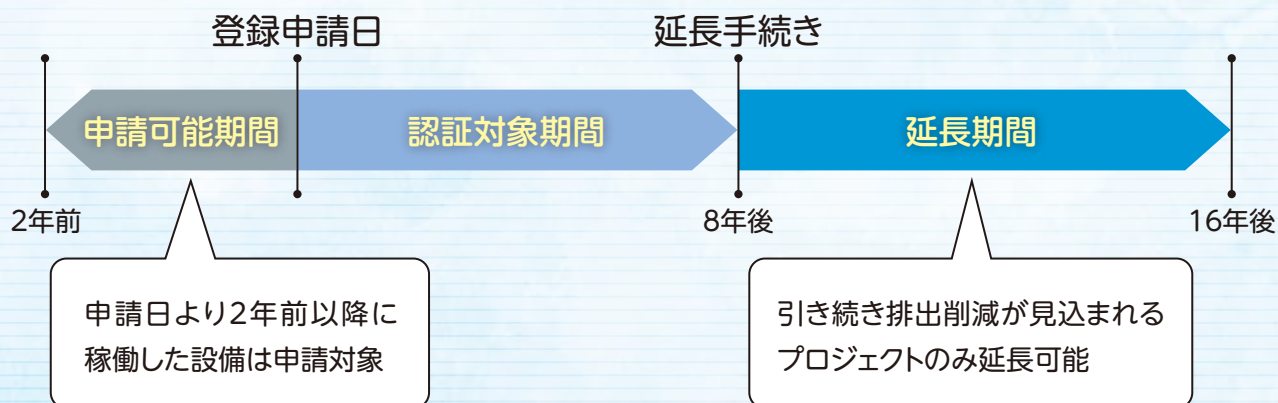
◎プロジェクトの登録要件

- 日本国内で実施されること
- プロジェクト登録申請日の2年前の日以降に稼働した設備が対象であること
- 類似制度や本制度において、同一内容の排出削減プロジェクトが登録されていないこと
- 排出削減のための設備投資回収年数が概ね3年以上であること(追加性を有すること)
- 審査機関による第三者認証を受けていること
- 本制度で承認された方法論に基づいていること

◎プロジェクトの対象期間

クレジットの認証対象期間はプロジェクト登録申請日またはモニタリング開始可能日のいずれか遅い日から8年間です。ただし、引き続き排出削減が見込まれるプロジェクトについては、さらに8年間(最大16年間まで)認証対象期間を延長することができます。

また、設備の更新などの排出削減をすでに実施済みの場合も、申請日から遡って2年前以降に実施されたものは、対象となります。



◎プロジェクトの形態

プロジェクトの登録形態は「通常型」と「プログラム型」があります。プログラム型は削減・吸収活動を随時追加することができます。

通常型

基本的には1つの工場・事業所等における削減活動を1つのプロジェクトとして登録する形態。

プログラム型

家庭の太陽光発電設備導入など、複数の削減・吸収活動を取りまとめ1つのプロジェクトとして登録する形態。小規模な活動からクレジットを創出することが可能となり、登録・審査の手続き、コストを削減することも可能となる。

◎方法論一覧

省エネルギー

- ・ボイラーの導入
- ・ヒートポンプの導入
- ・空調設備の導入
- ・照明設備の導入
- ・コージェネレーションの導入
- ・変圧器の更新
- ・外部の効率のよい熱源設備を有する事業者からの熱供給への切り替え
- ・未利用廃熱の発電利用
- ・未利用廃熱の熱源利用
- ・電気自動車又はプラグインハイブリッド自動車の導入
- ・ITを活用したプロパンガス等の配送効率化
- ・ITを活用した検針活動の削減
- ・自動販売機の導入
- ・冷凍・冷蔵設備の導入
- ・ロールアイロナーの更新
- ・LNG熱料船・電動式船舶の導入
- ・廃棄物由来燃料による化石燃料又は系統電力の代替
- ・ポンプ・ファン類の更新
- ・電動式建設機械・産業車両への更新
- ・生産設備(工作機械、プレス機械、射出成型機、ダイカストマシン、工業炉又は乾燥設備)の更新
- ・エコドライブを支援するデジタルタコグラフ等装置の導入及び利用
- ・テレビジョン受信機の更新
- ・自家発電機の導入
- ・屋上緑化による空調に用いるエネルギー消費削減
- ・ハイブリッド式建設機械・産業車両への更新
- ・天然ガス自動車の導入
- ・印刷機の導入
- ・サーバー設備の更新
- ・節水型水まわり住宅設備の導入
- ・外部データセンターへのサーバー設備移設による空調設備の効率化
- ・エコドライブ支援機能を有するカーナビゲーションシステムの導入及び利用
- ・海上コンテナの陸上輸送の効率化
- ・下水汚泥脱水機の更新による汚泥処理プロセスに用いる化石燃料消費削減
- ・共同配送への変更
- ・冷媒処理設備の導入
- ・省エネルギー住宅の新築又は省エネルギー住宅への改修
- ・ポルトランドセメント配合量の少ないコンクリートの使用
- ・園芸用施設における炭酸ガス施用システムの導入
- ・エネルギーマネジメントシステムの導入
- ・非再生可能エネルギー由来水素・アンモニア燃料による化石燃料等又は系統電力の代替
- ・水素燃料電池車の導入(非再生可能エネルギー由来水素利用)
- ・無溶剤型ラミネート装置の導入
- ・ボイラーへの膜分離装置の導入

再生可能エネルギー

- ・バイオマス固形燃料(木質バイオマス)による化石燃料又は系統電力の代替
- ・太陽光発電設備の導入
- ・再生可能エネルギー熱を利用する熱源設備の導入
- ・バイオ液体燃料(BDF・バイオエタノール・バイオオイル)による化石燃料又は系統電力の代替
- ・バイオマス固形燃料(廃棄物由来バイオマス)による化石燃料又は系統電力の代替
- ・水力発電設備の導入
- ・バイオガス(嫌気性発酵によるメタンガス)による化石燃料又は系統電力の代替
- ・風力発電設備の導入
- ・再生可能エネルギー熱を利用する発電設備の導入
- ・再生可能エネルギー由来水素・アンモニア燃料による化石燃料等又は系統電力の代替
- ・水素燃料電池車の導入(再生可能エネルギー由来水素利用)

工業プロセス

- ・マグネシウム溶解鑄造用カバーストックの変更
- ・麻酔用N₂Oガス回収・分解システムの導入
- ・液晶TFTアレイ工程におけるSF₆からCOF₂への使用ガス代替
- ・温室効果ガス不使用絶縁開閉装置等の導入
- ・機器のメンテナンス等で使用されるダストブロワー缶製品の温室効果ガス削減
- ・CO₂吸収型コンクリートの使用
- ・バイオ炭使用型コンクリートの使用

農業

- ・家畜へのアミノ酸バランス改善飼料の給餌
- ・家畜排せつ物管理方法の変更
- ・茶園土壌への硝化抑制剤入り化学肥料又は石灰窒素を含む複合肥料の施肥
- ・バイオ炭の農地施用
- ・水稻栽培における中干し期間の延長
- ・肉用牛へのバイパスアミノ酸の給餌

廃棄物

- ・微生物活性剤を利用した汚泥減容による、焼却処理に用いる化石燃料の削減
- ・食品廃棄物等の埋立から堆肥化への処分方法の変更
- ・バイオ潤滑油の使用
- ・N₂O分解装置の導入

森林

- ・森林経営活動
- ・植林活動
- ・再造林活動

2025年9月時点。方法論は随時追加されますので、最新情報はJ-クレジット制度のホームページでご確認ください。



④ J-クレジットが発行されるまでの流れ

クレジットの認証・発行までには、プロジェクトの登録とモニタリング(削減量や吸収量の算定をするための計測等)の2つのステップがあります。

J-クレジット制度への参加にあたっては、クレジット創出者を技術的にサポートする支援を活用することができます。支援事業は国から委託された事業者が実施していますので、事業の詳細・活用については、内閣府沖縄総合事務局経済産業部エネルギー・燃料課*までお問い合わせください。

※裏表紙 問い合わせ先参照

STEP 1 プロジェクトの登録

1-1 プロジェクト計画書の作成

「どんなCO₂排出削減／吸収事業(省エネ設備の導入、森林管理等)を実施するか」を記載した計画書を作成します。

※計画書の作成について支援(コーチング)を受けることができます。
※対応する方法論がない場合は、新しく方法論を策定する必要があります。

1-2 審査機関によるプロジェクト計画書の審査

「プロジェクト計画がJ-クレジット制度の規定に沿っているか」を審査機関が事前確認します。

※審査費用について支援を受けることができます。

1-3 プロジェクト計画登録申請

有識者委員会に諮り、国が正式にプロジェクトを登録します。

STEP 2 モニタリングの実施

2-1 モニタリング報告書の作成

国に登録されたプロジェクト計画に基づき、排出削減量／吸収量を算定するための計測や実績を記録した「モニタリング報告書」を作成します。

※報告書の作成について支援(アドバイス)を受けることができます。

2-2 審査機関によるモニタリング報告書の検証

「モニタリング方法等がJ-クレジット制度の規定に沿って行われているか」を審査機関に事前確認してもらいます。

※審査費用について支援を受けることができます。

2-3 クレジット認証申請

J-クレジット事務局(制度管理者／委員会)にクレジットの認証を申請します。

クレジットの認証・発行

⑤ 支援の対象事業者

- 中小企業基本法の対象事業者(みなし大企業であっても、法人単位で満たしていれば支援対象)
- 自治体 ●公益法人(一般/公益社団法人、一般/公益財団法人、医療法人、福祉法人、学校法人等)
- その他、大企業以外

J-クレジット創出モデルケース

ケース
CASE

1

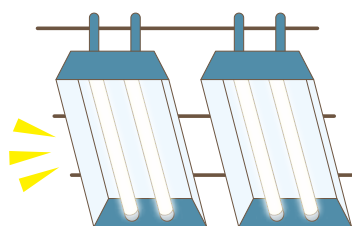
照明設備の導入

省電力の照明設備を導入することにより、電力の使用量を削減するプロジェクトです。

【適用条件】 ○更新前の照明設備又は標準的な照明設備よりも、省電力の照明設備を導入すること

更新前

条 件：100Wの蛍光灯 800台
稼働時間：3,600時間/年
消費電力：288,000kWh/年
排出係数：0.000438t-CO₂/kWh
年間排出量：126t-CO₂

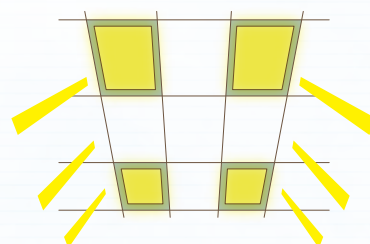


更新前の照明設備

プロジェクト実施後

条 件：20WのLED 800台
稼働時間：3,600時間/年
消費電力：57,600kWh/年
排出係数：0.000438t-CO₂/kWh
年間排出量：25t-CO₂

ベースラインより
電力使用量が
削減される。



省電力の照明設備

年間101t-CO₂のクレジット創出

ケース
CASE

2

ボイラーの導入

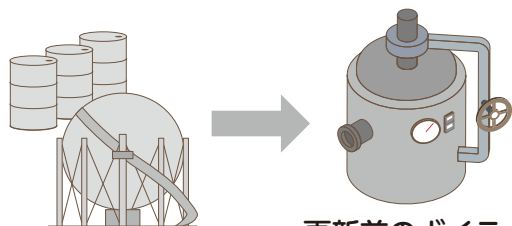
効率のよいボイラーを導入することにより、化石燃料や電力の使用量を削減するプロジェクトです。

【適用条件】 ○標準的なボイラーよりも、効率が良く、原則として都市ガス（又は LNG）又は電気で駆動するボイラーを導入すること

○ボイラーで生産した蒸気又は温水等の熱の全部又は一部を自家消費すること

更新前

燃 料：A重油
エネルギー消費効率：85.5%
生成熱量：4,342GJ/年
排出係数：0.0708t-CO₂/GJ
年間排出量：360t-CO₂



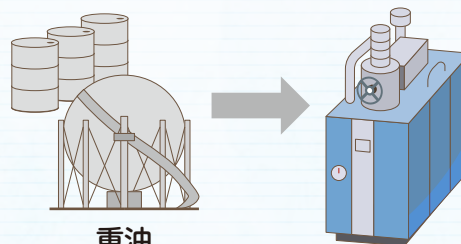
重油
都市ガス等

更新前のボイラー
又は
標準的なボイラー

プロジェクト実施後

燃 料：都市ガス
エネルギー消費効率：86.4%
生成熱量：4,342GJ/年
燃料使用量：112.2千Nm³/年
単位発熱量：44.8GJ/千Nm³
排出係数：0.0513t-CO₂/GJ
年間排出量：258t-CO₂

ベースラインより
エネルギー使用量が
削減される。



重油
都市ガス等

高効率ボイラー

年間102t-CO₂のクレジット創出

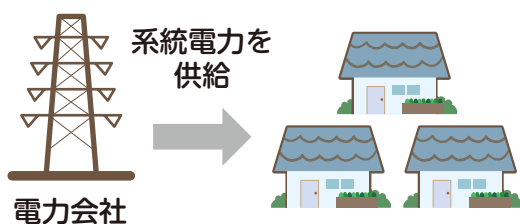
太陽光発電設備の導入(プログラム型)

太陽光発電設備を導入することにより、系統電力等の使用量を削減するプロジェクトです。

- 【適用条件】
- 太陽光発電設備を設置すること
 - 原則として、発電した電力の全部又は一部を自家消費すること
 - 発電した電力が系統電力等を代替するものであること

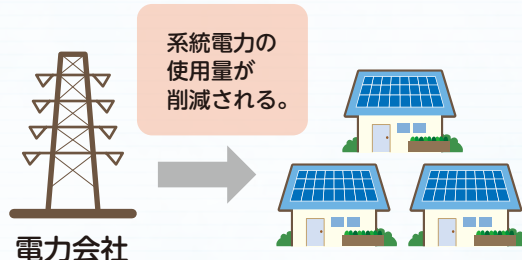
更新前

太陽光発電設備がなく、
電力会社から系統電力を供給されている



プロジェクト実施後

設置数: 住宅153軒
設置容量: 4kW/軒
発電電力量: 4,000kWh/年/軒
売電電力量: 2,500kWh/年/軒
排出係数: 0.000438t-CO₂/kWh
年間削減量: 0.66t-CO₂/軒



年間100t-CO₂のクレジット創出

沖縄県内のJ-クレジット創出

J-クレジット登録事業者一覧

プロジェクト実施者	プロジェクト概要	CO ₂ 排出削減量 (t-CO ₂ /年)
沖縄県企業局	浄水場におけるポンプ・ファン類の更新	815
株式会社青い海	製塩工場におけるボイラーの更新(重油→LPG)	322
有限会社登川商事(ドラゴンボウル)	ボウリング場における照明設備の更新(LED化)	112
国立大学法人琉球大学	大学における太陽光発電設備の導入、変圧器の更新	83
株式会社南都(おきなワールド)	観光施設における照明設備の更新(LED化)、太陽光発電設備の導入	101
有限会社東南植物楽園	観光施設における照明設備の更新(LED化)	53
有限会社具志川ゴルフクラブ	ゴルフ場における照明設備の更新(LED化)	106
タピック沖縄株式会社(ペアール沖縄・タピック)	運動施設における照明設備の更新(LED化)	26
合資会社北谷スポーツセンター (スポーツワールドサザンヒル)	運動施設における照明設備の更新(LED化)	99
タピック沖縄株式会社(ユインチホテル南城)	宿泊施設におけるコージェネレーションの導入(A重油→天然ガス)	160
沖縄綿久寝具株式会社	クリーニング工場におけるボイラーの更新(A重油→LNG)	1,790
株式会社琉球ホテルリゾート那覇 (ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城)	ホテルにおけるボイラーの更新(A重油→都市ガス)	256
株式会社みつわ産業	小売店舗における照明設備の更新(LED化)	93
社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院	病院における照明設備の更新(LED化)	137
トーラス株式会社	住宅における太陽光発電設備の導入	396
株式会社饒平名エコステーション	住宅における太陽光発電設備の導入	177
沖縄ガス株式会社	事業所におけるボイラーの導入	2,478
株式会社琉球銀行	家庭および事業所における省エネルギー住宅の新築又は省エネルギー住宅への改修	1,986
八重山森林組合	市有林における森林経営活動	1,834

事例 1

ZEH住宅におけるCO₂削減プロジェクト

株式会社 琉球銀行

クレジット創出見込量

123t-CO₂/年

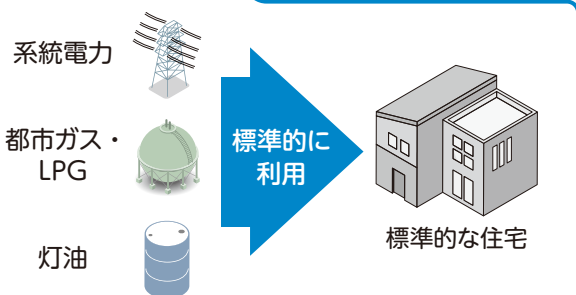
クラブ会員が購入したZEH住宅による CO₂排出量削減実績をとりまとめ、環境活動へ活用

沖縄の脱炭素社会実現に向けた取組としてプログラム型のプロジェクトを実施しました。

住宅を新築する際、高効率機器の導入や外壁の高断熱化を実施した省エネルギー住宅（ZEH）にすることで、温室効果ガスの排出量を削減しています。



削減活動実施前



削減活動実施後



事例 2

病院における照明設備の更新

社会医療法人 かりゆし会ハートライフ病院

クレジット創出見込量

137t-CO₂/年

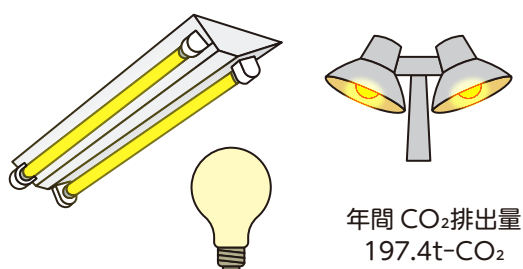
病院建物および屋外通路の 照明設備(蛍光灯等)を高効率照明(LED)に更新

環境にやさしい病院づくりのため、省エネルギー化と環境配慮を目指したプロジェクトです。

病院建物内や屋外通路等に設置された1,977台の照明設備を省電力なLED照明に更新することで消費電力量を削減し、CO₂排出量を削減しています。

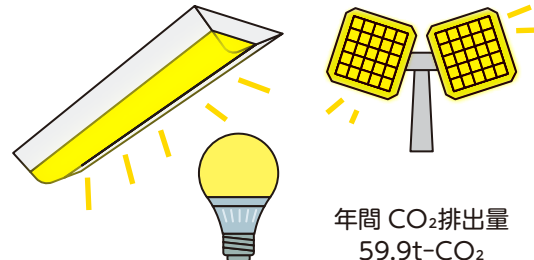


削減活動実施前



LED照明に更新

削減活動実施後



事例3

ホテルにおけるコージェネレーションの導入

ユインチホテル南城(タピック沖縄株式会社)

クレジット創出見込量

108t-CO₂/年

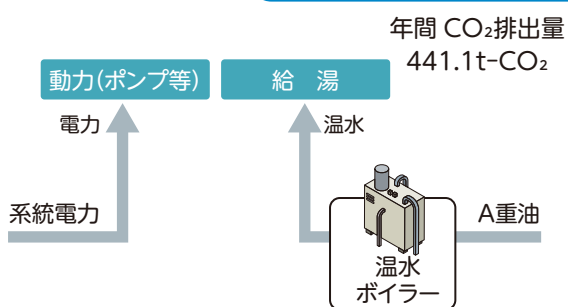
温泉付随ガスを活用し コージェネレーションを導入

温泉を汲み上げる際に産出される天然ガス(メタン)を環境対策として活用するプロジェクトです。

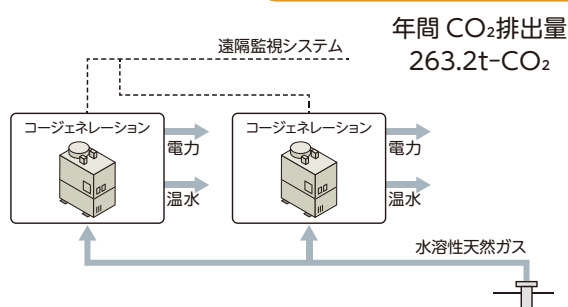
天然ガスを燃料にするマイクロコージェネレーション設備を導入し、ボイラーで使用する重油および電力使用量を減らすことで、CO₂排出量を削減しています。



削減活動実施前



削減活動実施後



事例4

観光施設における照明設備の更新、太陽光発電設備の導入

おきなわワールド(株式会社南都)

クレジット創出見込量

72t-CO₂/年

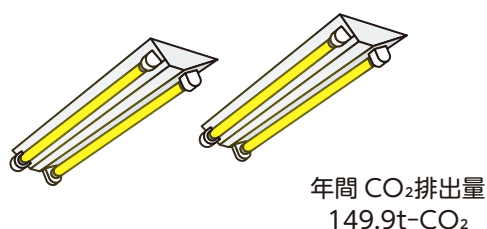
園内各施設を高効率照明(LED)に更新、 駐車場に太陽光発電設備を導入

自然から恩恵を受ける観光施設の責務として環境対策に取り組んでいます。

従来の照明設備(蛍光灯)に比べ高効率なLED照明へ更新しました。さらに太陽光発電設備で系統電力を代替し、CO₂排出量を削減しています。

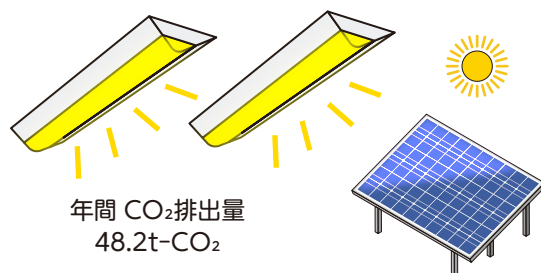


削減活動実施前



LED照明に
更新
太陽光発電
設備を導入

削減活動実施後

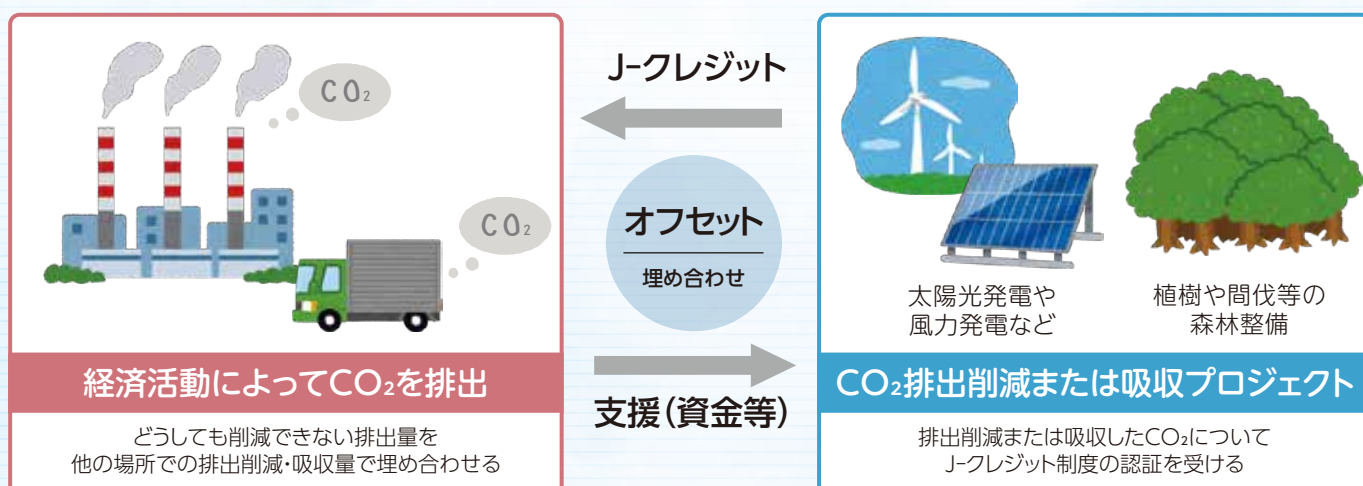


J-クレジットの活用 ～カーボン・オフセット～

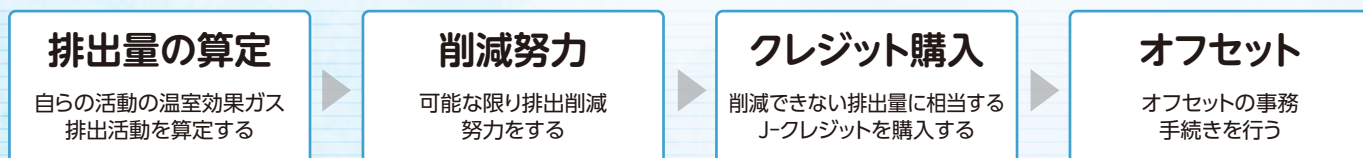
① カーボン・オフセットとは

カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動において排出する温室効果ガスについて、できる限り排出量の削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った削減活動に投資することで、排出される温室効果ガスを「埋め合わせる(オフセット)」という考え方です。

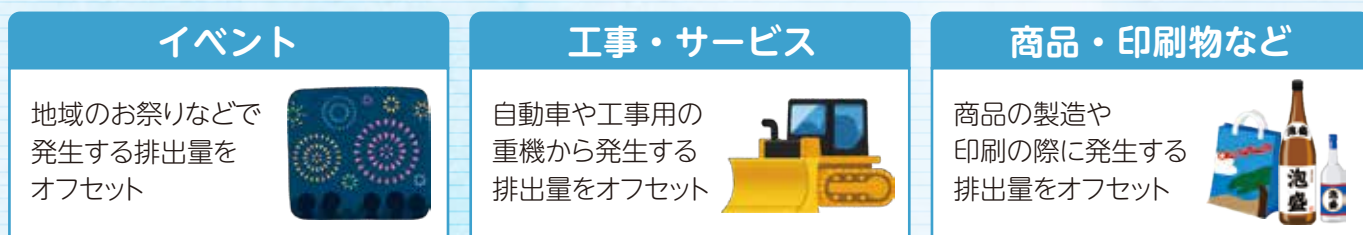
企業等により創出されたクレジットは、各地で開催されるイベントや企業活動などのカーボン・オフセットに活用されています。



② オフセットの流れ



③ オフセットの種類



④ クレジットの活用例(その他)

● 温対法・省エネ法での活用

温対法：調整後温室効果ガス排出量や、調整後排出係数の報告に利用可能です。

省エネ法：省エネルギープロジェクトでのクレジットを省エネ法の共同省エネルギー事業の報告に利用可能です。

● CDP・SBT・RE100での報告に活用

CDP 質問書・SBT：再エネ電力や再エネ熱由来のJ-クレジットを、再エネ調達量として報告することができます。

RE100：再エネ電力由来のJ-クレジットを、再エネ調達量として報告することができます。

⑤ 沖縄県内のカーボン・オフセット事例

イベントのカーボン・オフセット

沖縄県内では、スポーツ、学園祭や地域のお祭り、イルミネーション、セミナーなど、さまざまなイベントのカーボン・オフセットが行われています。

カーボン・オフセットを行うことで、環境に配慮したイベントとしてアピールできます。また、イベント参加者の環境意識を高めることにもつながります。さらに、沖縄県内のJ-クレジットを活用することで、県内企業が行うCO₂排出削減の取組を支援できます。

参加者の移動(自家用車)

100台が5km以内の地域から往復



0.1
t-CO₂

燃費:16.1km/L(ガソリン)
排出係数:2.29kg-CO₂/L

参加者の移動(飛行機)

100人が那覇-宮古を往復



10.4
t-CO₂

那覇-宮古の飛行機利用
片道52.0kg-CO₂/人

参加者の移動(シャトルバス)

10台が片道5kmを30往復



1.6
t-CO₂

燃費:5km/L(軽油)
排出係数:2.62kg-CO₂/L

会場の発電機使用

500Lのガソリンを使用



1.1
t-CO₂

排出係数:2.29kg-CO₂/L
(ガソリン)

廃棄物の処理

1,000kgのごみを処理



0.3
t-CO₂

排出係数:0.29kg-CO₂/kg
(一般廃棄物の場合)

イベント期間中の参加者の生活

1,000人が2日間滞在



12
t-CO₂

1日あたりの
排出量6kg-CO₂/人

工事のカーボン・オフセット

沖縄県内では、公共工事で使用される建設機械や工事用車両から排出されるCO₂のカーボン・オフセットが積極的に行われています。

工事のカーボン・オフセットに取り組むことで、環境に配慮した工事を実施することができ、環境対策に積極的に取り組む企業として発注者から評価を受けたり、社員の環境意識の向上につながります。

バックホウ

20日間稼動



2.1
t-CO₂

1日40Lの軽油使用
排出係数:2.62kg-CO₂/L

ダンプトラック

20日間稼動



2.6
t-CO₂

1日50Lの軽油使用
排出係数:2.62kg-CO₂/L

現場事務所

1年間使用



6.9
t-CO₂

10,000kWhの電力使用
排出係数:0.694kg-CO₂/kWh

工事・調査用車両

年間10,000kmを走行



2.3
t-CO₂

燃費:10km/L(ガソリン)
排出係数:2.29kg-CO₂/L

工事・調査用船舶

20日間稼動



5.5
t-CO₂

1日100Lの重油使用
排出係数:2.75kg-CO₂/L

作業員の通勤(車両)

10人×100日×往復10km



1.4
t-CO₂

燃費:16.1km/L(ガソリン)
排出係数:2.29kg-CO₂/L

沖縄県防災危機管理センター棟(仮称)新築工事(仮設工区)

株式会社 高橋土建

「沖縄県防災危機管理センター棟(仮称)新築工事(仮設工区)」において、使用する掘削機、仮設土留杭打機、構造物取壊し機、運搬機、埋戻し機の稼働及び現場事務所の電気の使用に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)



46t-CO₂



安里川河川改修工事(R6-1)

株式会社 高橋土建

「安里川河川改修工事(R6-1)」において、使用する掘削機、運搬機、吊り込み機、仮設土留杭打機、埋戻し機の稼働及び現場事務所の電気の使用に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)



30t-CO₂



令和6年度小禄道路航空自衛隊周回道路切り回し(その2)工事

株式会社 高橋土建

「令和6年度小禄道路航空自衛隊周回道路切り回し(その2)工事」において、地盤改良機、掘削・盛土・締固め機、吊込み機、運搬機、発電機の稼働及び現場休憩所の電気の使用に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)



28t-CO₂



魚口地区畑地かんがい施設工事(R6-1)

有限会社 南雄建設

「魚口地区畑地かんがい施設工事(R6-1)」において、発電機、4t車、2t車、バックホウ、ミニユンボ(40)の使用に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット(株式会社青い海)

**20t-CO₂**

陸自那覇(5)資材置場新設等土木その他工事

南陽土建(株)・(株)丸元建設 建設共同企業体

「陸自那覇(5)資材置場新設等土木その他工事」において、自動車(職員の通勤車両)および電気(現場事務所)の使用に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット(沖縄県企業局)

**19t-CO₂**

宜野湾浄化センター最初沈殿池築造工事(R5)

(株)福地組・(有)前川工業 特定建設工事共同企業体

「宜野湾浄化センター最初沈殿池築造工事(R5)」における現場職員の通勤に使用した自動車の走行に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)**9t-CO₂**

PGM ゴルフリゾート沖縄ナイター照明設備設置工事

株式会社 那覇電工

PGMゴルフリゾート沖縄が実施した「ナイター照明設備設置工事」において、現場作業車及び作業員の通勤に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット(株式会社青い海)



18t-CO₂



県道 82 号線道路照明修繕工事(R6)

株式会社 那覇電工

「県道82号線道路照明修繕工事(R6)」において、作業員の通勤車両および現場作業車から排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット(沖縄県企業局)



11t-CO₂

開邦高校・中学校校舎改築工事(第2期・機械)

(株)和高建設工業・(株)オカノ・技研工業(株) JV

「開邦高校・中学校校舎改築工事(第2期・機械)」の作業員の通勤に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット(沖縄県企業局)



8t-CO₂





嘉手納(5)家族住宅(508)等新設機械工事

尚平工業 株式会社

「嘉手納(5)家族住宅(508)等新設機械工事」において、現場職員の通勤に使用した自動車の走行に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット(株式会社青い海)

7t-CO₂

「アルファステイツ那覇古波蔵建築工事」において、自動車(職員の通勤車両)の使用に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)6t-CO₂

アルファステイツ那覇古波蔵建築工事

エッカ石油 株式会社



令和5年度前兼久地区電線共同溝設置工事

光電気工事 株式会社



「令和5年度前兼久地区電線共同溝設置工事」において、現場職員の通勤に使用した自動車の走行に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)4t-CO₂

開邦高校・中学校校舎改築工事(第2期・電気)

南部電工(株)・日進電気土木(株)・大協電気工事(株) 特定建設工事共同企業体

「開邦高校・中学校校舎改築工事(第2期・電気)」において、社員の通勤車両の走行に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット J-クレジット(おきなわ美ら島カーボンクレジット)

2t-CO₂

第73回琉大祭

国立大学法人 琉球大学

「第73回琉大祭」における発電機の燃料使用、参加者の移動(学内駐車場の使用可能場所を自家用車で利用)、廃棄物の処理に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)



9t-CO₂



第48回沖縄の産業まつり

沖縄の産業まつり実行委員会

「第48回沖縄の産業まつり」における臨時巡回バスの燃料使用、電気使用、廃棄物の処理に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)



5t-CO₂



第3回沖縄パラフットボールフェスティバル

株式会社 那覇電工

一般社団法人沖縄県サッカー協会が開催した「第3回沖縄パラフットボールフェスティバル」において、参加者及び運営担当者等の来場車両から排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット(株式会社青い海)



2t-CO₂



潮乃森ビーチフェスタ 2024

沖縄市 東部海浜開発局

「潮乃森ビーチフェスタ2024」におけるシャトルバスおよび発電機の燃料使用に伴って排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)



12t-CO₂



沖縄市ゼロカーボンフェスティバル
～みんなで話し、考え、つながる環(わ)～

沖縄市

「沖縄市ゼロカーボンフェスティバル～みんなで話し、考え、つながる環(わ)～」において、シャトルバスの運行及び関係スタッフの移動に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)



2t-CO₂



第28回国場川水あしび

国場川水あしび実行委員会

「第28回国場川水あしび」において集めたプラスチックごみの焼却によって排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)



2t-CO₂



令和6年度エネルギー使用合理化シンポジウム

内閣府沖縄総合事務局

「令和6年度エネルギー使用合理化シンポジウム」における来場者・関係者の車両の走行及び会場の電力使用に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)



1t-CO₂



第7回ビーチクリーンアップ

株式会社 オカノ

「第7回ビーチクリーンアップ」において、中城村吉の浦海岸で回収したプラスチックごみ・タイヤの焼却に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)



1t-CO₂

自家用車、自家用自動二輪車

(一財)沖縄県環境科学センター 職員A氏

自家用車および自家用自動二輪車の使用に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

(2023年8月25日～2024年8月24日)

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)



2t-CO₂



行内報かいぎん

株式会社 沖縄海邦銀行

「行内報かいぎん2024年8月号vol.72」

「行内報かいぎん2025年1月号vol.73」

の原材料調達、生産時の電力使用、輸送に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)

2t-CO₂

沖縄大交易会公式ガイドブック

沖縄大交易会実行委員会

「沖縄大交易会2024公式ガイドブック」の原材料調達・印刷・流通・廃棄に伴い排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)

2t-CO₂

第8回美ら島商談会 DX 篇開催記録集

(株)沖縄銀行 法人事業部
地域活性化グループ

「第8回美ら島商談会DX篇開催記録集」の原材料調達、生産時の電力使用に伴って排出されたCO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

利用したクレジット

J-クレジット
(おきなわ美ら島カーボンクレジット)

1t-CO₂



ロゴマークデザインについて

「変える」をコンセプトに、削減したCO₂を環境価値に変えること、世界的な環境問題である地球温暖化を沖縄から変えていこうという想いを込めてデザインされたロゴマークです。

詳しくはWEBをご覧ください



J-クレジット制度について

<http://japancredit.go.jp/>



沖縄県内の制度参加、 カーボン・オフセットの支援について

<https://www.okikanka.or.jp/information/j-cre/>

お問い合わせ先

内閣府沖縄総合事務局 経済産業部 エネルギー・燃料課

〒900-0006 那覇市おもろまち2-1-1 那覇第2地方合同庁舎2号館
TEL 098-866-1759

一般財団法人 沖縄県環境科学センター

〒901-2111 浦添市字経塚720番地
TEL 098-875-5208

本紙の原材料調達、生産時の電力使用、製品の流通、廃棄に伴って排出されたCO₂は、沖縄県内の事業者が実施した排出削減事業によって創出されたJ-クレジットでカーボン・オフセットします。



この印刷物は、E3PAのゴールドプラス基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています。

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。